

# ヒートリードを使用する。


**1** 使用する瓶種に合わせてオーバーフロー水位の高さを調整する。  
★すっきり瓶燗モードを利用する際は、降下水位高さも調整する。



**2** 各種手動バルブの開閉を確認、調整する。



**3** 防水ハッチを取り外し、製品を槽内に投入する。(ムラの無いよう均一に並べる)



防水ハッチを確実に締める。

**4** 給水を開始する

給水を行っている場合や、水位が足りてない場合は、バトライトが定期的に点灯する。



**5** ダミー瓶、ダミー瓶ケースを用意し、リード線に余裕を持たせて、瓶燗槽内に投入する。品温センサーとコネクターが繋がっているか確認する。上部品温用と下部品温用の2つがあるので間違えないよう注意する。



**6** 液抜きバルブを2ヶ所閉じて電動ホストで、カバー付き冷却シャワー部を降ろす。  
※バルブが開いたままだと冷却シャワーがうまく作動しません。



カバーシート下部の支持パイプを瓶燗槽内に収める。

**7** 槽温、品温を設定する。

槽温	上部品温	下部品温
現在値: 74.9 PV 設定値: 75.0 SV 目標槽温: MV	現在値: 64.8 PV 設定値: 48.0 SV すっきりモード時の水位降下開始品温: MV	現在値: 64.3 PV 設定値: 62.0 SV 最終微調整を開始する品温: MV


『ヒートリードによる瓶燗設定・結果シート』<sup>※1</sup>を見ながら温度設定を行っていきます。各種温度設定の不明点は、『安全運転マニュアル』の『温度設定』をご確認ください。

※1: データの蓄積、瓶燗の良し悪しを判断するための記録紙

**8** ホールド時間、冷却時間など、各種を設定し運転を開始する。  
(貯タンクに湯又は水のストックが無い場合、あらかじめボタン操作により、槽内への給水を行う)



**9** 循環ポンプが動き始めたら、初回運転時は圧力ゲージ(Yスト1次圧、2次圧)を目視確認する。  
(ゲージが0のままならエア 噛み発生)また、各種バルブ等が開いてないか異常を確認する。水位が足りてない場合は給水ボタンで給水する。



**10** 完了ブザーが鳴ったらデジタル温度記録計で、温度履歴を確認する。

タッチパネル操作



過去のデータも確認可能

**11** 温度表記に異常が無ければ、記録計に品種やロットを書き込み保存をする。

書き込みボタン

書き込み後OKボタン



**12** 温度履歴に異常があれば、工程をやり直す等、処置を施す。

**13** 液抜きバルブを2ヶ所開き電動ホストで、カバー付き冷却シャワー部を上昇する。  
※バルブを開かないと、シャワーノズルから水滴が落下し、製品取り出し工程で、体が濡れる可能性があります。



**14** 瓶燗槽内の水位が下がっていることを確認し、防水ハッチを取り外し、製品を槽内から取り出す。

**3** に戻り、次の瓶燗を行う。

## ヒートリードの作業を終了する。

1

槽内及び貯タンクの湯又は水を抜く(水温に注意して排水する。)



3

槽内が汚れてきたら、泡洗浄や、アルカリ循環洗浄などを利用して、洗浄を行う。

4

すすぎ洗いをしっかり行い、乾燥を促す。

5

定期的に冷却シャワー用及び循環ポンプ用のY型ストレーナーメッシュを洗浄する。



2

槽内グレーチングをスライドし、循環ポンプ吸込口のメッシュを取出し、洗浄する。(毎日)



ここが詰まると  
温水が循環しません。

特に冬場は、凍結に注意して必要に応じて  
全ての水を抜き、作業を終了する。

電動弁内・バルブ内の凍結にもご注意ください。

※方法：手動操作画面で全ての電動弁(MV)を開き、ブレーカーOFF。



熱エネルギーを思い 時代のニーズを追究する

# ヒートリード

バッチ式自動瓶燻・急冷システム

# HEATLEAD